

# 平成 29 年度 坂井市一般会計等財務書類 4 表 < 概要 >

## 貸借対照表 (バランスシート)

貸借対照表は、会計年度末時点において市が所有している土地や建物などの財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債：将来の世代の負担、純資産：過去及び現世代の負担）で賄っているかを表しています

資産の部		負債の部	
○固定資産		○固定負債	
・事業用資産	654 億円	・地方債	440 億 2 千万円
・インフラ資産	549 億 3 千万円	・その他	48 億 5 千万円
・その他	80 億 8 千万円	○流動負債	
○流動資産		・1年以内に返済する地方債	32 億 3 千万円
・現金預金	20 億 4 千万円	・その他	11 億 2 千万円
・未収金	1 億円		
・その他	26 億 5 千万円		
<b>資産計</b>	<b>1,332 億円</b>	<b>純資産の部</b>	
		○純資産	799 億 8 千万円
		<b>負債・純資産計</b>	<b>1,332 億円</b>

## 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、市が1年間に行政サービスを提供するために、どの分野にどのようなコストがかかったかを示す費用と、その財源として負担していただいた使用料や手数料等の収入の関係を表しています。

1. 人にかかるコスト (職員の給料や議員の報酬など)	57 億 1 千万円
2. 物にかかるコスト (消耗品や委託料、建物の維持管理や減価償却費など)	136 億 5 千万円
3. 社会保障費や補助金等のコスト (障害福祉サービスや生活保護、医療費助成などの社会保障給付、各種団体に対する補助金など)	152 億円
4. その他のコスト (支払利息など)	4 億 7 千万円
<b>経常行政コスト・・・①</b>	<b>350 億 3 千万円</b>
使用料・手数料などの利用者負担	22 億 5 千万円
<b>経常収益・・・②</b>	<b>22 億 5 千万円</b>
<b>純経常行政コスト (①-②)・・・A</b>	<b>327 億 8 千万円</b>
臨時損益・・・B	4 億 1 千万円
<b>純行政コスト (A+B)</b>	<b>331 億 9 千万円</b>

市民一人当たりの  
経常行政コストは  
380,157 円

市民一人当たりの  
純行政コストは  
360,252 円

## 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産が1年間でどのように変動したかを表したものです。

前年度末純資産残高・・・A	824 億 9 千万円
純行政コスト (Δ)・・・①	△331 億 9 千万円
財源	
税金等	234 億 4 千万円
国県補助金	71 億 3 千万円
合計	305 億 7 千万円
本年度差額 (①+②)・・・B	△26 億 2 千万円
その他の変動・・・C	1 億 1 千万円
本年度末純資産残高 (A+B+C)	799 億 8 千万円

## 資金収支計算書 (キャッシュフロー計算書)

資金収支計算書は、行政活動に伴う現金等の資金の増減を性質の異なる三つの活動「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」に区分して金額を表し、どのような活動に資金が必要であったかを表したものです。

業務活動	支出	人件費 物件費 社会保障費、補助金など その他	55 億円 93 億円 152 億円 4 億 2 千万円
	収入	市税など 国や県からの補助金 その他	234 億 8 千万円 67 億 7 千万円 22 億 5 千万円
	【業務活動の収支】・・・①		20 億 8 千万円
投資活動	支出	道路や公共施設等に整備費 基金への積み立て その他	48 億 7 千万円 9 億 6 千万円 5 億 8 千万円
	収入	国や県からの補助金 基金の取り崩し その他	3 億 5 千万円 8 億 8 千万円 6 億 7 千万円
	【投資活動の収支】・・・②		△45 億 1 千万円
財務活動	支出	地方債の返済 その他	30 億円 - 円
	収入	地方債の発行 その他	59 億 4 千万円 - 円
	【投資活動の収支】・・・③		29 億 4 千万円
本年度資金収支額 (①+②+③)・・・A			5 億 1 千万円
前年度末資金残高・・・B			8 億円
本年度末資金残高 (A+B)			13 億 1 千万円

+歳計外現金残高 (7 億 3 千万円)